

当たり屋

AAA投資顧問の

1on1ミーティング

約3500ある上場銘柄から、投資顧問会社がどうやって銘柄を発掘しているのか。この連載では、彼らの取材現場に同行し、アンダーバリューのお宝銘柄探しの模様を紹介していく。足元動向はもちろん、事業性や将来価値に焦点を置き分析した内容をチェックして欲しい。

最高益更新見通しのグローバル企業

フェローテックホールディングス(6890・JQ)



山村 文代表取締役副社長

主要製品は多岐にわたるが、大幅投資となった半導体ウエーハ工場建設に注目する。山村文代表取締役副社長に伺う。

「8インチ、12インチの半導体ウエーハを、中国へ670億円設備投資する計画です。中国の杭州市でウエーハ加工ライン、銀川市ではインゴット製造ラインとして建設。現在の中国は半導体の最先端技術で、韓国・台湾に後れを取っています。ICチップ、シリコンウエーハ、製造装置等の国産化比率が10%しかないので政府は『中国製造2025』を発表しました。半導体産業育成政策の中で、国内半導体メーカーの育成支援を進めておりますが、製造できる中国企業は限定されております。そのため中国国内の需要に対して、供給が追い付かない状況です。需



▲液体の磁性流体を用い、真空を維持。世界シェアNo.1

要に対応し確固たる地位を築くことが、長期観点より必要と考えました。製造したウエーハは、8インチで世界3位のウエーハメーカーであるGWC社と提携しているため、中国だけではなく世界的エリアに販売可能です」

半導体製造の消耗材で安定したビジネスを展開

2020年から8インチを35万枚、12インチを3万枚生産開始する見通し。8インチは

半

導体関連製品を手掛けるフェローテックホールディングス(6890・ジャスダック)は今期も最高益更新見通しの成長企業である。同社の主要

IoTセンサー、パワー半導体、車載向けに使われ、今後も伸びていくという。米中貿易摩擦は警戒点だが、米国でのシリコンウエーハ販売先は比較的少なく、中国・日本・台湾で顧客確保が可能と説明を受けた。また今期から、その他セグメントより移動してきた部品洗浄の売上高が伸びている。

「部品洗浄は中国国内の半導体・FPD企業向けに特化したビジネスです。製造装置はガスを使うのでトッププレートがあるカバーや、石英・セラミック

などの消耗材に不純物が付着します。その部品を顧客から運んできて洗浄した後、真空パックにして設置する総合サービスです。現在は安徽省に5か所目の洗浄工場を建設しております。安徽省は製造工場が増加しており、顧客より強い要請がありました。売上高が拡大してきたことで、今期より半導体事業セグメントに組み入れた形です」

中国・四川省に第2工場を増設

四川・大連・安徽省は、製造



▲中国・上海の工場

工場が増加しており、四川省でも第2工場を増設。洗浄事業は中国国内で50%のシェアを占めており、今後は早い段階で業績成長していく見通しだ。

次に太陽電池関連事業についてだが、2019年中に事業撤退発表をしている。最大の市場である中国が5月に補助金打ち切りとなり、それ以降需要の落ち込みと価格下落が継続している模様。中国の政策に影響を受け、一企業では収益コントロールが難しいことで撤退に踏み切ったという。

中長期テーマとしての注目点は、自動車関連分野への参入だ。EVや自動運転などにパラダイ

取材を終えて
製造装置の設備投資延期などで、半導体セクターと判断され売り込まれた。ただ株式市場は間違える事も多く、不当に売られた場面では拾っていきたい企業と言えるだろう。

ムシフトすることで、車内に新しいアプリの需要が増加するためである。電流の流れで冷やす、温めるを使い分ける半導体素子のサーモモジュールや、磁石に吸い寄せられる液状の新機能素材、磁性流体など同社のコア技術を活かして車載部品メーカーへ提案中である。

株価推移を振り返ると、2018年は年初から3分の1まで売り込まれた。半導体製造装置の設備投資が控えられサプライドマテリアルズ、東京エレクトロンなどの株価が下落。半導体関連セクターの売りに巻き込まれたが、同社は設備投資ではなく、製造装置稼働工程での消耗品を提供する企業であることを頭に入れておきたい。設備投資の調整局面でも消耗品は増収基調となりそうなので、株価回復に期待したい。

